

# I 調査結果概要

## 県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、急速に悪化している。  
先行きについては、不透明感がみられる。

○経営者の景況感D Iは、▲79.1と、前期比で22.7ポイント減少し、3期連続で悪化した。下げ幅は平成12年の調査開始以来最大である。業種別では、製造業は6期連続で悪化し、非製造業は3期連続で悪化した。先行きD Iは、▲55.9と、前回調査比で13.6ポイント減少し、2期連続で悪化した。

○売上げD I及び資金繰りD Iは2期連続で悪化した。

○採算D Iは3期連続で悪化した。

○設備投資の実施率は2期連続で減少した。

○来期については、売上げD I・資金繰りD I・採算D Iは当期D Iより改善する見通しである。  
また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和2年1～3月期、「当期」：令和2年4～6月期、「来期(先行き)」：令和2年7～9月期

### 1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感D Iは▲79.1となり、3期連続で悪化した。前期比で22.7ポイント減少し、前年同期比では35.6ポイント減少した。

業種別にみると、製造業(▲79.8)は6期連続で悪化し、非製造業(▲78.5)は3期連続で悪化した。

#### 〈景況感D Iの推移〉

	当 期 (R2.4-6)	前 期 (R2.1-3)	前年同期 (H31.4-R1.6)
全 体	▲79.1	▲56.4	▲43.5
製 造 業	▲79.8	▲65.3	▲45.2
非製造業	▲78.5	▲49.3	▲42.1

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は4.1%（前回調査(R1.1-3月)比▲0.5）、「悪い方向に向かう」とみる企業は60.0%（前回調査比+13.1）だった。  
先行きD Iは▲55.9（前回調査比▲13.6）と、2期連続で悪化した。

#### 〈来期の見通し〉

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きD I (R2.7-9)
全 体	4.1%	60.0%	▲55.9
製 造 業	3.4%	60.0%	▲56.7
非製造業	4.6%	59.9%	▲55.3

## 2 売上げについて

売上げD Iは▲74.2（前期比▲35.1）となり、2期連続で悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続で悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

### 〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R2. 4-6)	前 期 (R2. 1-3)	前年同期 (H31. 4-R1. 6)	来期見通し (R2. 7-9)
全 体	▲74.2	▲39.1	▲26.1	▲54.1
製 造 業	▲73.7	▲46.3	▲28.0	▲55.0
非製造業	▲74.5	▲33.4	▲24.6	▲53.3

## 3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲58.9（前期比▲29.4）となり、2期連続で悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続で悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより改善する見通しである。

### 〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R2. 4-6)	前 期 (R2. 1-3)	前年同期 (H31. 4-R1. 6)	来期見通し (R2. 7-9)
全 体	▲58.9	▲29.5	▲19.3	▲51.9
製 造 業	▲58.4	▲34.1	▲20.7	▲52.5
非製造業	▲59.2	▲25.8	▲18.1	▲51.4

## 4 採算について

採算D Iは▲70.4（前期比▲32.1）となり、3期連続で悪化した。来期は改善する見通し。

業種別にみると、製造業は3期連続で悪化し、非製造業は2期連続で悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

### 〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R2. 4-6)	前 期 (R2. 1-3)	前年同期 (H31. 4-R1. 6)	来期見通し (R2. 7-9)
全 体	▲70.4	▲38.3	▲29.3	▲57.3
製 造 業	▲68.9	▲42.9	▲29.2	▲56.8
非製造業	▲71.6	▲34.6	▲29.5	▲57.6

## 5 設備投資について

実施率は15.7%となり、2期連続で減少した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は3期連続で減少し、非製造業は2期連続で減少した。  
来期については、製造業、非製造業ともに減少する見通しである。

### 〈設備投資の実施率〉

	当 期 (R2.4-6)	前 期 (R2.1-3)	前年同期 (H31.4-R1.6)	来期見通し (R2.7-9)
全 体	15.7%	19.2%	21.7%	12.9%
製 造 業	17.1%	21.2%	25.7%	15.4%
非製造業	14.6%	17.6%	18.6%	11.0%

## 6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP14以降をご覧ください）

### 【現在の景況感】

- （一般機械器具）・産業機械市場の景況感が大幅に悪化している。
- （輸送用機械器具）・休業日が増え、生産量が減少している。
- （プラスチック製品）・休業する事業者が増えてきている。
- （印刷業）・緊急事態宣言によるイベント自粛や生産の減少がみられ、印刷ニーズは減少している。
- （百貨店）・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、不況である。
- （スーパー）・内食需要が増加し、食品スーパーの景況感是好況である。
- （商店街）・床屋や婦人服販売店の多くが休業しており、不況である。
- （建設業）・公共工事の発注に遅れが出ている。

### 【売上げ・採算】

- （一般機械器具）・産業機械は大幅に受注が減少したため、売上高も大幅に減少した。
- （電気機械器具）・売上高は前年同月比で減少した。
- （食料品製造）・受注増加や原材料価格低下により採算性が上がった。
- （プラスチック製品）・採算性はあまり変わらなかった。
- （印刷業）・5月以降、採算性が特に悪化した。
- （百貨店）・営業再開後は休業の反動もあり、売上げの増加がみられた。
- （情報サービス業）・新規受注の減少等により稼働率が低下しており、採算性は悪化した。

### 【今後の見通し】

- （一般機械器具）・受注状況の回復は、年内は厳しいとみている。
- （輸送用機械器具）・工場の稼働日数は回復するものの、見通しはどちらともいえない。
- （電気機械器具）・製品によっては忙しくなるものもあるが、見通しはどちらともいえない。
- （銑鉄铸件）・景況感悪化しており、今後も悪い方向に向かうとみている。
- （百貨店）・消費動向の先行きが不透明であり、悪い方向に向かうとみている。
- （旅行業）・7～9月は回復傾向が予測されるが、対前年比では大幅に減少するとみている。